

平成 30 年度 自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>多様な学習歴やニーズを持つ生徒の学習を支援し、社会で共生する資質と自立の基盤となる能力・態度を育む。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 社会的な自立に向けた支援</p>
---------------------------	---	----------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業、面接指導(スクリーニング)の改善	○授業を大切に育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮の観点を取り入れた授業の展開 ○授業のための全職員による情報共有 ○支援が必要な生徒への個別指導	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮についての説明を全職員に行った。 ○支援員を配置し、個別指導を充実させている。	B	○伝え方を工夫するなど、ユニバーサルデザイン・合理的配慮に基づいた授業をさらに推進する。 ○さらに情報を共有し、個別の支援・声かけを継続し、授業への動機付けを行う。
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた状況を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○生徒が、安心して学校生活に取り組むことができる。	○個人面談・Hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・白鳳サポーター・特別教育支援員との連携 ○通級指導教室の環境整備	○中学校からの引継、個人面談や入学者アンケート、Hyper-QUを実施し生徒理解を深めた。 ○各課程会議での情報共有やSC、SSW、白鳳サポーター等との情報共有を行った。	B	○共有した情報をもとに、支援方針を引き続き検討していく。 ○中学校からの引継を活用し、個別支援をさらに充実させる。
	○ICT活用教育の推進	○ICT化の進展に伴い、情報活用能力の育成が必要である。	○ICTの活用ができる。	○ICT活用のための教員研修 ○各教科でのICT活用の推進 ○NHK高校講座でのICT活用	○授業でのタブレットの活用は昨年比生徒で30%増と、教員生徒共に着実に増えている。	B	○iPadを含めICT機器の活用を引き続き推進する。 ○ICT機器を活用しての公開授業等への参加を促す。
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○規律指導	○挨拶、言葉遣いなど基本的生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いすることができる。	○遅刻・欠席の防止指導 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康管理指導の推進	○時間厳守、挨拶、マナー等について担任を中心に指導している。 ○挨拶は概ねできている。 ○健康管理の意識には個人差がある。	B	○生徒が自発的に挨拶し、時間を守り、健康的に学校生活が送れるよう、積極的に日々声かけを行う。
	○自己理解・他者理解の促進	○人間関係力の育成を促す環境づくりが必要である。	○生徒同士の信頼関係を醸成し、クラスがお互い尊重し合っている居心地の良い場となる。	○生徒理解のための教員研修の実施 ○通級指導の実施 ○エンカウンターの実施	○計画どおり事業を実施し、教員の生徒理解が深まりつつある。 ○通級指導に関する事業を計画通り進めている。	B	○これまで行った調査・研究をもとに後期より通級指導を実施する。 ○エンカウンターを行い、生徒間の人間関係力を引き続き育成する。
	○体験活動とおとした社会性の育成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高める必要がある。	○諸活動において、自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。	○定通充実事業(チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア)の実施 ○アルバイト、ボランティア活動の推進	○体験的活動を計画どおり実施し、生徒の社会性が育ち、いきいきと学校生活が送れるようになってきている。	B	○今後も引き続き体験活動とおとして、生徒自ら進んで行動できるよう、事業を実施する。
	○地域・社会との交流	○地域との交流をおとし、地域社会や周りの環境に対する関心を高める必要がある。	○地域社会や環境に関心をもち、異世代とのコミュニケーションができる。	○さつまいもの植付・収穫・会食を通じた園児との交流 ○銭太鼓、傘踊り体験 ○マツムシソウ、ヒガンバナの植栽活動	○計画どおり事業を実施し、地域の人々や文化に触れることで、他者との関わりや地域のつながりを学ぶことができています。	A	○今後も地域との交流活動や貢献活動など、計画した残りの事業を実施する。
3 社会的な自立に向けた支援	○キャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、進路意識を早期に向上させる必要がある。	○進路に対する意識付けと自分の適性にあった進路実現を達成することができる	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・CAと連携した進路指導	○キャリア塾事業の予算が削減されたが、外部団体の協力や校内努力により計画通り実施している。 ○自分の適性を見極められずにいる生徒がいる。	B	○個別面談等の対策を更に充実させ、進路決定に向けての指導を引き続き行う。
	○「産業社会と人間」 「総合的な学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて徐々に身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施	○自立に向けた活動を計画どおり実施し、プレゼンテーションなど自己表現能力が徐々に身につく、卒業後の進路目標につながっている。	B	○テーブルマナー講習会・学習成果発表会等、自立に向けた活動を計画どおり実施をする。
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○個々の生徒が、それぞれ進路相談および進路活動の充実により進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就労・生活支援センターとの連携 ○インターンシップの推奨	○個々の生徒のニーズに応じて関係機関と連携し、進路実現に向け取り組んでいる。 ○昨年よりHPに奨学金支援関係と連携するページを開設している。	B	○引き続き計画した各種事業を実施し、生徒自身の社会経験の充実を図る。

評価基準 A: 目標を達成している B: ほぼ計画どおり推進している C: 取組がやや遅れている D: 一層の取組が必要である E: 目標・方策の見直しが必要である

<100%>

<80%程度>

<60%程度>

<40%程度>

<30%以下>